

第2期 善通寺市子ども・子育て支援事業計画案に対する意見と市の考え方

意見提出者2名 意見の件数8件

【ご意見1】 奨学金制度について

例えば、高松市では高等学校、中等教育学校（後期課程）、高等専門学校、特別支援学校（高等部）を対象に給付型の奨学金があり、三豊市でも高等学校、中等教育学校（後期課程）、特別支援学校（高等部）、高等専門学校、短期大学および大学を対象に貸与型（無利子）の奨学金があります。善通寺市でも子育て支援の一環として、奨学金制度を導入されては如何でしょうか。

市の考え方

高等学校等を対象とした奨学金制度の導入予定はありませんが、高等学校等へ進学する生徒に対する経済的支援施策としまして、準要保護の認定世帯の進学者には、高等学校等の入学金及び入学支度金を交付しています。また、要保護世帯の進学者には、生活保護費で支給対象とならない、私立高校への入学金の一部を交付しています。

【ご意見2】 医療費助成について

大阪府の箕面市では、医療費を高校卒業年齢までを助成対象としています。2008年以降、同市では「子育てしやすさ日本一」を目指しているとのことですので、当然の施策かと存じますが、「もっと、ずっと子どもを生み育てたいまち ぜんつうじ」の基本理念を掲げる善通寺市でも同様の施策を取ることが望ましいように考えます。ついでに申し上げますと、箕面市のウェブサイトは大変充実しており、子育て支援について力の入れようがよくわかりますので、参考になるのではないのでしょうか。

市の考え方

子育て支援は本市の重要な施策であり、医療費助成の拡充も、その一つであると考えますが、国や香川県の助成対象の拡充や財源の確保等の課題があることから、実施につきましては今後の検討課題とさせていただきます。

【ご意見3】 こども110番運動について

前述の箕面市では個人のお宅や店舗に、子どもがちかんなどの危険な目に遭遇した時のために、玄関などのわかりやすい場所にプレートやステッカーを設置しているそうです。平成31年3月末現在の設置枚数は2,016枚です。子どもたちの安全確保のためにも、「地域の子どもは地域で守る」機運を一層高め、「こども110番」の取り組みを取り入れてみては如何でしょうか。

市の考え方

現在、夏休み前に市PTA連合会校外指導部の役員が市内8校区において子どもSOS看板設置調査を実施しています。子どもSOS看板は、子どもたちが登下校中や外で遊んでいるとき、危険な目に遭った場合に、その看板を設置している商店や住宅に助けを求めることができるものです。令和元年度は新規8件で市内設置箇所は合計219ヶ所となっています。設置箇所を増やすとともに、子どもの安全確保に向け様々な方法を検討していきたいと思えます。

【ご意見4】 子供の見守りシステムについて

箕面市では、子どもの安全確保のため、新しい見守りシステム「otta」を導入しています。この見守りシステムは、箕面市立小中学校の全児童生徒（約11,000人）に小型発信機（見守り端末）を配布し、いざという時に、学校や教育委員会が子どもの位置情報を確認できる仕組みです。※保護者自身が子どもの位置情報を確認できる有料サービスもあります。これについては、個人で導入検討していますが、是非善通寺市が導入していただけないかと切望いたします。

市の考え方

子どもたちの安全確保については、平成27年度から市内全域の小学校通学路を中心に防犯カメラを設置しており、今年度末で104台の設置を予定しています。市内全域に防犯カメラを設置している自治体は香川県内でも本市のみです。子どもの見守りシステムにつきましても、今後他市の実施状況を踏まえ調査したいと思います。

【ご意見5】 メールサービスについて

様々な自治体で行われておりますが、防犯メールや防災メールの配信を希望いたします。また、市からのお知らせ等も配信いただけると、回覧板での周知よりも迅速且つ自治体未加入の世帯にも伝わり、効率的と考えます。

市の考え方

連合自治会を通じて単位自治会内での回覧のほか、ホームページ、フェイスブックなどによる情報発信しております。また、子どもの安全の確保に対する取り組みとしては、教育委員会から不審者情報などの防犯メールの発信のほか、防災情報については、県の防災情報メールにより本市の防災情報も配信されています。その他緊急を要する事案が発生した際には、防災行政無線や広報車による広報など、事案内容により市民の安全を第一に最良の発信方法を検討し情報発信しているところです。今後も迅速かつ効果的な情報発信に努めます。

【ご意見6】 住宅取得支援について

子育て支援とは直接関係が無いかもしれませんが、三豊市の様に住宅取得支援事業(若者の住宅取得補助最大100万円)などを計画されても永住の決め手になるかもしれません。どうぞ一考ください。

市の考え方

住宅取得支援事業はありませんが、市内に住宅を新築または購入する場合、増築、中古住宅を購入する場合に一定の要件を付し、住宅建設等資金利子補給事業を実施しています。また、移住者支援として、移住促進家賃等補助金や結婚新生活補助金等があります。今後も移住・定住促進のための施策を検討したいと考えております。

【ご意見7】 「第2期善通寺市子ども・子育て支援事業計画(案)」2項目について P51 第5章3(4) ⑦病児・病後児保育事業について

【確保方策】では、「必要量は確保できる見込み」と結論づけられていることを、利用者としては、延利用者数の数字だけかたづけられているのではないかと、疑問に思います。現状は、必要時に断られることが多く困っています。市内では希望どおりに利用できる状況にはありません。(利用できない理由は、にしかわクリニックは木曜日が休日、定員オーバー、

定員に達していなくても病状によっては定員が1名のみとなる、人手不足等。)市外の施設のみで、クラブが来年度から閉鎖するということが、さらに困る状況です。また市外の施設では、対象が小学6年生までの施設が多数ありますが、市内2か所では、小学3年生までとなっています。実態を詳細に把握して、結論づけていただくことを望みます。

市の考え方

ニーズ量が風邪やインフルエンザなどの流行時期によって増減するため、子育て支援会議において、この事業の量の見込みは、実績値から算出した量の見込みとして検討することとしました。定住自立圏域内での利用料金が市内料金と同額となったため、本市の2か所の施設を利用する市外児童が増えたことも、必要時に利用できない要因の一つであると考えます。市内の施設の拡充や利用対象児童の要件について検討するとともに、圏域内の市町に対して、病児・病後児保育の増設を強く要望したいと考えます。

【ご意見8】 P19 第2章3(2) インフルエンザ予防接種の一部助成について

助成の利用状況はどの程度でしょうか。「予防接種を受けても、り患するから。」「1500円の助成はあっても、接種2回分の自己負担額は5000円以上かかり、兄弟数名が受けると負担が大きいから。」との理由で予防接種は受けないとの声を多数聞きます。

全額補助になれば、確実に接種率はあがると思います。流行期も安心して学校生活を送れるよう、ご検討よろしくをお願いいたします。

市の考え方

本市のインフルエンザ予防接種の助成状況は、過去4年間の実績値では、延べ3,000人から3,400人の間で推移している状況です。現在、市内の実施医療機関が設定する予防接種費用が異なることから、助成の上限額を一律1,500円としていますが、助成額については、子育てにかかる経済的負担の軽減に関わる課題として、今後検討していきたいと考えております。